
仮面ライダーディケイドEX～VS凶悪軍団～

元気丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイドEX VS 凶悪軍団

【Nコード】

N5335J

【作者名】

元気丸

【あらすじ】

とある世界にやってきた士は凶悪軍団と戦わなくてはならない・・・
・
・
・
そう紅渡に告げられた士達はさまざまな世界と協力して凶悪軍団に
たちむかう・・・

※《絶対！題名で《1話》⇒《2話》⇒《3話》⇒《4話》・・・
の順番で読んでください！》

2話 謎の組織

レイ「ハアッ！」

タイガ「テアッ！」

二人は激突し互いの爪が互いの体を切り裂いた

レイ「グハッ！」

タイガ「ドアッ！」

そしてレイは消え、タイガは

タイガ「ディ・・・レン・・・ド・・・様ア」

この叫びと共に爆発した

ディエンドは変身を解いた

海東「ディレンド？」

海東の前にオーロラが現れた

一方士達は・・・

一同「凶悪軍団？」

紅「ええ、まだ社会には出ていませんがこれから力をつけてこ

の世界を破壊しようとしています。」

士「だいたいわかった。それより、そのネーミングはないんだ！お前ネーミングセンス無いだろ！」

夏海「士君！」

『ドスッ』

夏海は士にく笑いのツボ>を打った

士「ハッハッハッハ」

紅「この名前は奴らが自らのっているのですが・・・」

雄介「そういえば何で奴らはこの世界を破壊するんだ？」

紅「それは・・・」

海東「奴らのボス、ディレンドが破壊者だからだ」

一同「えっ？」

海東「奴は悪のライダーたちを集め手下にし、本来の目的の<破壊>をしようとしている」

士「なんでお前がいるんだ！」

海東「さっきやつの手下にあってね、戦いが終わったらここに連れてこられた」

紅「今回は私たちも協力します」

そう言っつて紅渡はオーロラと共に消えた

『タッタッタッタ』

こっちに黒いコートを着た男がやって来た

その男の腰にはくVバックル＞が巻きついていた

突然男は窓ガラスの方を向き

男「・・・・変身・・・・」

その男は仮面ライダーベルデに変身した

ベルデ「仮面ライダーディエンド！勝負だ！」

士「あいつは？」

海東「きつと奴らの手下だ・・・」

そしてディエンドライバーを構えた

『カメンライドウ』

海東「変身！」

『ディ・エンド』

ベルデ「来い！」

二人はくミラーワールドへと入って行った・・・

2話 謎の組織（後書き）

ども！元気丸ッス！（＞0＜）／

今回はバトルシーンがあまりありませんでしたが次回は多くしたいと思います。

次回をお楽しみに！

1話 謎の世界

ここはく光写真館＞士達はとある世界にやってきた

士「ここはどんな世界だ？」

士は外に出ながらデータの消えたカードを見ながらつぶやいた

夏海「待ってください！士君！」

雄介「オイ！士」

夏海も雄介も士につづいて外へ出た

夏海「そういえば今回の士君の格好どこかでみたような・・・？」

雄介「そうか？」

雄介は知らないのも当然である
今回の士はく夏海たちの世界＞で着ていた服装なのだ

士「もうこの服装はあきたぞ！」

夏海「いやまだ二回目ですよ！・・・てアレ？」

夏海は気づいた、ここが自分の世界にそっくりなことに・・・

士「またネガの世界みたいな世界じゃないのか？」

「正解です」

一同「えっ・・・」

すると士達の前にオーロラが現れた

一方その頃＜海東大樹＞は・・・

海東「なんの騒ぎだい？」

そこには＜仮面ライダータイガ＞率いる＜ゼクトルーパー部隊＞が
海東を待っていた

タイガ「仮面ライダーディエンド！ディケイドの仲間だな！」

海東「失敬だな！あくまで僕は士のライバルだ！」

『カメンライドウ』

海東「変身！」

『ディ・エンド』

海東をスーツが包み9枚のプレートが頭部に差し込まれる

タイガ「撃て！」

『ダダダダダダ』

ゼクトルーパーが撃った弾丸をひらりと避けていくディエンド

ディエンド「行ってらっしゃい！兵隊さん♪」

『カメンライドウ、ライオトルーパーズ！』

ディエンドライバーから3人のライオトルーパーが召還された

「やああ」

「グワッ」

ライオトルーパーによってゼクトルーパーは倒された

タイガ「チイイ！」

『ストライクベント』

タイガの手にデストクローが装着された

ディエンド「鋭い爪か・・・だったらこれだ」

『カメンライドウ、レイ！』

ディエンドライバーから手に鎖が巻きついた仮面ライダーレイが召還された

『ファイナルアタックライドウ、レ・レ・レ・レイ！』

レイの手の鎖が解放され、手にギガンティッククローが現れた

ディエンド「行け！」

『ファイナルベント』

レイとタイガは正面から激突した・・・

1話 謎の世界（後書き）

ご覧にいただきありがとうございます！

3話 謎の男

二人はミラーワールドに入って行った・・

『アタックライドウ、ブラアストウ!』

ベルデ「チッ!」

ディエンド「フフ・・・」

ディエンドとベルデの戦いは繰り広げられている

『クリアーベント』

ベルデは透明になった

ディエンド「クソ!どこだ!こうなったら・・・」

『フォームライドウ、クウガア!ペガサアス!』

Pクウガはペガサスボウガンでベルデを貫いた

ベルデ「グハ!・・・おのれ、だったら」

『コピーベント』

ディエンド「なっ・・・」

ベルデはディエンドの姿とディエンドライダーをコピーした

『ファイナルアタックライドウ、デイ・デイ・デイ・デ
イ・エーンド!』

『アタックライドウ、インビジボウ!』

Dベルデの攻撃をデイエンドはアタックライドで避けた

その激戦を士達は観ていた

夏海「どうしましょう、ベルデが海東さんに!」

士「おれはもすでにどっちがどっちだかわからん……」

雄介「士! たすけてやれ!」

士「しょうがない……」

そういうと士はディケイドライバーを構えた

「待て!」

一同「!?!」

一方ミラーワールドでは……

デイエンド「そうだ! こいつで……」

『カメンライドウ、ガイ!』

ディエンドライバーからガイが召還された

『アタックライドウ、コンファインベント!』

ガイは肩にカードを差し込んだ

『コンファインベント』

Dベルデ「なにっ!」

Dベルデの効果が解けて元のベルデに戻った

『ファイナルアタックライドウ、ガ・ガ・ガ・ガイ!』

ガイは<ヘビープレシチャー>を放った

ベルデ「グハアッ!」

ベルデはやられた

『ストライクベント』

ディエンドに火の玉が飛んできた

ディエンド「グア!」

ディエンド「お前はっ!リュウガ!」

『サバイブ』

3話 謎の男（後書き）

前よりはバトルシーン増えたかな？

4話 謎の破壊者

ディエンドはくディエンドドラグーンをはつどうさせた・・・

『ファイナルアタックライドウ、リュ・リュ・リュ・リュウキ!』

ディエンド「はあっ」

リュウガ「サバイブの俺が負けるなんて・・・グアアアア!」

リュウガは爆死した

龍騎は鏡の外の方を見た

龍騎「士!」

ディエンド「シンジ・・・と言ったね。士の知り合いかい?」

龍騎「あなたは?」

ディエンドは外を見た、そして今の状況を理解した

ディエンド「説明は後だ」

ディエンドはミラーワールドを出た

士「海東! 遅いぞ!」

士達の前には黒いコートの男たちが立っていた

「変身！」

黒いコートの男たちは仮面ライダーに変身した

その真ん中に見慣れないライダーが立っていた

士「お前がディレンド？」

ディサイド「貴様がディケイドか・・・その力・・・拝見させてもらう！」

士「変身！」

『カメンライドウ、ディケイド！』

士はく仮面ライダーディケイドへに変身した

ディレンド「行け！」

ディレンドの隣にいるく仮面ライダーサソードへに指示した

『クロックアップ！』

サソードは高速移動し、ディケイドに攻撃した

ディケイド「チッ」

『カメンライドウ、カブト！』

『アタックライドウ、クロックアップ!』

ディケイド「たあっ」

Dカブトは高速の世界に入って行った

『アタックライドウ、カブトクナイガン!』

Dカブト「はあああっ!」

Dカブトはサソードと剣の打ちあいを始めた

そのころ鏡から出てきた海東とシンジは夏海たちから状況説明をされていた

シンジ「そうゆうことですか・・・」

Dカブト「うああ!」

ディケイドはサソードに弾き飛ばされ変身が解けた

士「シ、シンジ!」

士はシンジの登場に驚いている

ディレンド「ふっ所詮その程度か・・・」

するとライダーたちのまえにオーロラが現れた

紅「いきなさい・・・尾上タクミさん・・・」

タクミは腰に＜ファイズドライバー＞を巻き＜ファイズフォン＞に
555とナンバーを入力し

タクミ「変身！」

タクミはドライバーにファイズフォンを差し込んだ

タクミは＜仮面ライダーファイズ＞になった・・・

4話 謎の破壊者（後書き）

すいません！

時間がないのでここまでです！

5話 新しい仲間・新しい敵

『スタンディング・バイ!』

タクミ「変身!」

『コンプリート!』

タクミの体に赤い線が走り、まばゆい光と共に仮面ライダーファイズ>となった

ファイズは<ファイズアクセル>を左腕につけミッションメモリーをドライバーに付けた

『コンプリート!』

ファイズアクセルフォームは音速の世界へと入って行った

『スタートアップ!』

ファイズポインターにミッションメモリーをセットした

『3』

『エクシードチャージ』

『2』

ファイズA「はああっ」

ファイズはく連続クリムゾンスマッシュを放った

『1』

『リフォーメーション!』

サソード「ぐあああ!」

サソードは青白い炎に包まれ消えた

ディレンド「チッ、ここまでか」

ディレンド達は走り去って行った

士「タ、タクミ!」

タクミ「お久しぶりです! 士さん!」

紅「さあシンジ君、時間です」

シンジ「えっ」

シンジの前にオーロラが現れた

シンジ「士さん、短い間でしたがありがとうございました」

シンジはオーロラの中に消えていった

士「本当に短いぞ」

タクミ「状況は知っています、さあ！とりあえず写真館へ帰りましょう」

夏「何でタクミ君が仕切ってるんでしょうか」

ユ「さあ？」

写真館に行く途中……

「待て！」

士「おまえは！」

黒いコートを着た男が4人現れた

「「「「変身」」」」

『カメンライドウ、ディレンド！』

『ガオウフォーム！』

『ネガフォーム！』

『ハイジャックフォーム』

その4人はそれぞれ牙王、ネガ電王、幽気となった

士「チッこっちも行くぞ！」

『カメンライドウ、ディケイド!』

『カメンライドウ、ディ・エーンド』

ユ「変身!」

『スタンディング・バイ!』

『コンプリート!』

士達はディケイド、ディエンド、クウガ、ファイズとなった

幽「俺とソラのためにお前ら全員死ねえええ!」

牙「お前ら一回食われろ!」

ネ「本当の悪の組織ってやつを見せてやる!」

ディレンド「破壊者はこの俺だ!」

その頃、紅はデンライナーにいた

モ「なっなんだテメエ!」

紅「モモタロス、一緒に来てください」

オーナー「紅さんの頼みなら仕方ありませんね」

モ「知り合いかよ!」

ジ「私も言っただけか？」

モ「なんでここに居るんだよこの鳥やろう！」

紅「あなたはジークですか、いいですよ」

モ「マジかよ！」

紅「さあ、行きましょう」

モ「だけど、俺ら誰かに憑依しないと・・・」

紅「私ですか？」

モモタロス「紅に憑依した」

M紅「行くぜ行くぜ行くぜええ」

ジ「私も行くか・・・」

モモタロス「俺らはオーロラの中に消えた」

その頃ディケイド達はディレンド達に悪戦苦闘していた

『アタックライドウ、デングァッシャー！』

ディレンドの手にデングァッシャーが現れた

M紅「待て！」

オーロラからモモタロスが憑依した紅とジークが現れた

ジ「体借りるぞ!!」

ユ「オイ!」

ユウスケはジークに憑依され変身が解けた

M紅「変身!」

『ソードフォーム』

電「俺、参上!」

紅は電王になった

ディレンド「登場早々悪いが消させてもらう」

『ファイナルアタックライドウ、デ・デ・デ・デンオウ!』

『『フルチャージ!』』』

ネガストリームスラッシュ、タイラントスラッシュ、ターミネイト
スラッシュ、ディレンドのエクストリームスラッシュでディケイド
達を切り裂いた

「「「ぐあああっ」」」

ディレンド「ふははは・・・」

『フルチャージ!』

ディレンド「ぐはっ!」

「「どあっ」」

フルチャージされたデンガッシャーブーメランモードとハンドアックスモードが4人を直撃しディレンド以外爆死した

ディレンド「次なる使者を送る! 覚えている!」

『アタックライドウ、インピシボウ!』

ディレンドはそう告げアタックライドで消えた

電WF「私は帰るぞ!」

ディケイド「あいつ、何しに来たんだ?」

夏「あっユウスケ!」

ディエンド「ユウスケの体のまま帰ったようだね」

ディケイド「あいつはいいだろ」

栄「土く〜ん」

そこに栄次郎が走りこんできた

夏「おじいちゃん!」

士「どうした？」

栄「郵便受けにこれが」

それはおそらく奴らの地図であった

海「行くのかい？ 罨も知らないよ」

士「行くぞ！ 言ってたたきのめしてやる！」

電「俺も行くぜ！」

士「でもそれじゃあ紅に迷惑だろ」

『ファイナルフォームライドウ、デ・デ・デ・デンオウ！』

電「うおっつ！！！！」

電王はくデンオウモモタロスとなり紅は吹っ飛んで行ったが着地した

紅「ではまた・・・」

紅はオーロラの中に消えた

士「んじゃ行くか」

栄「わたしは写真館に戻るよ」

そのころディレンドは戦いの準備をしていた

G4「ゼクトルーパー部隊A、Bは各地場所に付け！C、Dは武装の準備を！その他のゼクトルーパーは戦闘態勢に入れ！」

ディレンド「G4長官！<ドラスエナジー>はどうだ？」

G4「はい、順調に進んでおります」

ディレンド「アレさえ完成すれば赤ドラスが・・・ネオ生命体が・・・フハハハハ」

G4「しかしドラスは復活しますが赤ドラスには・・・」

ディレンド「そんなこと承知の上、さあ早くダークライダーも戦闘態勢に入るんだ」

G4「もう各地場所に付いてます」

ディレンド「お前だよ、ほらもうディケイドが来たぞ！行くぞ！」

G4「はっ」

アジトの外では士達が立っていたそこには大勢のゼクトルーパーとダークライダーがいた

士「これは・・・」

海「これはかなりヤバイね」

タ「どうします?」

モ「ここまで来たんなら行くしかねえだろ!」

士「そうだな夏みかん隠れてろ!」

紅「待ってください!」

士「紅・・・それにお前ら!」

紅が連れてきたのはもうジークが憑依していないユウスケ、シヨウイチ、シンジ、カズマ、アスム、ソウジ、時間の歪みで小さくなった良太郎、ワタルだった

カズマ「よう!士!」

士「カズマ、お前ら全員行くぞ!」

「「「「「「「「「「変身」」」」」」」」」」

『スタンディング・バイ!・・・・コンプリート!』

『ターンアップ!』

『ヘンシン・・・・キャスト・オフ!』

『ソードフォーム!』

『ガブッ・・・・キバって行くぜっ!』

『カメンライドウ、ディケイド!』

『カメンライドウ、ディ・エーンド!』

モモタロスは良太郎に憑依して変身し、ほかのライダーも変身した

ク「超変身!」

ア「変身!」

カ「ハイパーキャストオフ!」

『テンションフォルテツシモ!』

『クウガ! アギト! リュウキ! ファイズ! ブレイド! ヒビキ! カブト! デンオウ! キバ! ・ファイナルカメンライドウ、ディ・ディ・ディ・ディケイド!』

クウガ、アギト、キバ、ディケイドはライジングアルティメット、シャイニング、ハイパー、エンペラー、コンプリートフォームへとなった

ディエンド「君達も変わりなよ!」

『ファイナルフォームライドウ、リュ・リュ・リュ・リュウキ! ヒ・ヒ・ヒ・ヒビキ!』

龍騎と響鬼はリュウキドラグレッダー、ヒビキアカネタカになった

『コンプリート!』

ファイズはアクセルフォームになった

仮面ライダーがさまざまな形で勢ぞろいした・・・

5話 新しい仲間・新しい敵（後書き）

さあ最終決戦です
次回をお楽しみに！

番外編（^^）

ディレンドのアジト内・・・

ダークライダーたちが集まって井戸端会議をしている

ケタロスが喋りだす

ケ「なあ、アナザーアギト」

それにアナザーアギトが答える

ア「何？」

ケ「最近ダークライダー多くね？」

ア「あゝ分かる、それ」

ケ「まあ、俺も最近のヤツなんだけど」

ア「思ったんだけど、俺ってダークライダーじゃ無くね？」

ケ「なんで？」

ア「お前アギトのDVD見ろよ・・・」

ケ「いやあ私、最近のダークライダーなもんでネ」

ア「俺さあアギト、G3-X、ギルスと戦って敵のボス倒したんだ

け・・・」

「うああああっ」

ケ「何?!」

嘆いていたのはインペラーとシザースだった

ケ「アナザー、アレ何?」

ア「きつとベルデとリュウガがお亡くなりになられたから墓に線香あげて悲しんでんだろ」

シ「ベルデさあん! 同じ一話しか出てない者同士一緒に頑張つて来たじゃないですか」

イ「ベルデさ〜んとくに思い出ないけど悲しいっす」

ア「インペラー嘆く意味あんの?」

ケ「アレ? リュウガのことはいいの?」

イ「いいんですよ! あいつ、なんか暗いしあまりかかわりたく無いですよ」

シ「チッ、リュウキのパクリが、なに調子に乗ってサバイブになつてんだよ!」

ア「ひどい言い分! 悪徳刑事め!」

シ「なんだと！」

「待ちなさい！」

「「「「?!」」」」

そこに立っていたのはアビスだった

アビス「訴えるのだったらライダー裁判で決めなさい！」

「「「黙れえ！所詮アンデットのくせにライダーに成りやっがって！」」」

4人はアビスをボコボコに殴った

シ「あゝなんかすっきりしましたね」

3人「ホントホント」

ア「そういえば龍騎ってライダー多いよな」

ケ「13人でしょ？」

アビス「いや・・・じゅ・・・14人・・・ガクッ」

イ「あっ大丈夫です、大動脈押えましたから」

シ「響鬼も結構多いですよ」

ケ「OP登場のライダー合わせると11人だし、設定上のと劇場版

を合わせるとけっこうおいしいな！」

ア「でもダークライダーって歌舞鬼ぐらいしかい無くてね？」

歌「てやんでえ！なんかようかい？」

「「「いえ、なんでも」「」」

歌「けっ、つれないねえ」

歌舞鬼は帰って行った

イ「今思ってたんですけど、朱鬼は？」

ア「違うっしょ」

ケ「それに比べて龍騎ってダークライダー多いよね、龍騎、ナイト、ゾルダ、ライア以外みんなダークじゃん」

G4「おいさっさと仕事しろ！」

ケ「あっ長官だ！」

ア「じゃ！この辺でお開きにしますか！」

アビス「わ・・・私は・・・どうすれば・・・」

イ「お前もリュウガのように墓に埋めるから大丈夫！」

『ファイナルベント』

アビス「NOOOOOO!」

6話 本当の最終決戦へ

ディケイド「行くぞ！」

ディレンド「行けえええ！」

両者共に攻撃を仕掛けた

『ハイパークロックアップ！』

『スタートアップ！』

『マッハ！』

Hカブト、Aファイズ、ブレイドのスピードの追いついてくるのはカブトのダークライダーの・・・

ハイパーゼクターをつけたコーカサスと地獄兄弟だった

『ハイパークロックアップ！』

『『クロックアップ！』』

「はっ！」

「たあっ」

『ファイナルフォームライドウ、ブ・ブ・ブ・ブレイド！』

突然バトルに参加してきたDカブトはブレイドブレイドを手にとった

デイクイド

『アタックライドウ、クロックアップ!』

『ファイナルアタックライドウ、カ・カ・カ・カブト! ブ・ブ・ブ・ブレイド!』

『エクシードチャージ!』

『ライダージャンプ!・・・ライダーキック!』

『ライダージャンプ!・・・ライダーパンチ!』

あの地獄兄弟も連続クリムゾンスマッシュと高速デイクイドエッジにはかなわなかった

Kホッパー「また地獄行きか・・・行くぞ!」

Pホッパー「ああ、兄貴!」

ダブルホッパーは倒れた

他のライダーも敵を倒していく

Eキバ、リュウキドラグレッダー、ヒビキアカネタカは空中戦を繰り広げた

デンライナーが突然現れたと思ったら中からウラタロス、キンタロス、リュウタロス、ジークが出てきた

ウ「あれゝ先輩は？」

キ「どこや？」

リ「あゝ！モモタロス！」

ジ「では行くか・・・」

電王にイマジン達は無理やり取りついた

『スーパークライマックスフォーム』

スーパークライマックス

S電「モ「おい！なに勝手にとりついてんだよ！」

ウ「ようやく会えましたね先輩

キ「相変わらず狭いのう！」

モ「お前らのせいだろ！」

リ「あっ！また羽くつついた！」

ジ「苦しゅうない！」

モ「だから苦しいんだよ！」

良「まあまあ

〜

S電「行くぜ、行くぜ、行くぜ！」

S電王は空を飛んだそして、デングァッシャーで空中戦法を繰り広げた

とうとうすべてのゼクトルーパーとダークライダーが倒れた

ディケイド「ディレンド！追いつめたぞ！」

そこにドラスが現れた

ディケイド「ドラス・・・」

ディレンド「フフ・・・これは昔、死神博士からネオ生命体のエネルギーをもらってな」

ディケイド「チッあのじいさん・・・」

ディレンドは続ける

ディレンド「それを元に研究し、邪悪な魂を製造することができるようになってねそしてダークライダーも蘇らせることができるようになった」

ディケイド「なにっ」

ディレンド「そしてドラスは覚醒する」

ドラスの元にダークライダーの魂が吸収されていく

そしてドラスは赤ドラスとなった

ディケイド「海東!」

ディエンド「しょうがない、行け!」

『カメンライドウ、ゼットオー!』

ディエンドライダーから仮面ライダーZOが召還された

しかしZＯでも流石に赤ドラスは簡単には倒せないようだ

ディエンド「だったら似たもの同士行け！」

『カメンライドウ、ジェイ！』

等身大にJが召還された

J「はあっ」

Jは思いつき赤ドラスにパンチを浴びせた

ディエンド「今だ！」

『ファイナルアタックライドウ、ゼ・ゼ・ゼ・ゼ・ゼットオー！』

ZＯは赤ドラスにZＯキックを放った

赤ドラスはその場に倒れた

ディレンド「おのれ、ディケイドおおお！」

ディケイド「話は紅から聞いている・・・」

ディレンド「何！」

ディケイド「お前は世界の破壊者としてこの世界に生まれた。そして破壊者であるのにお前はこの世界を滅びの現象から救おうとした。だが最初は手を差し伸べてくれた世界、しかしお前を破壊者と知った瞬間世界はお前を嫌いお前の心は闇に落ちた・・・」

それでお前は満足か？」

ディレンド「何？」

ディケイド「昔お前にも仲間がいたそうじゃないか・・・しかし怒りのあまりその仲間を殺した！それで後悔していないのか？」

ディレンド「・・・」

ディケイド「少なくともここに居るライダーはそんなことをしたら絶対後悔するだろうな・・・でもそれだけじゃない！そこから生まれる思いが新しい力になる！」

ディレンド「お前はいったい何者だ！」

ディケイド「通りすがりの仮面ライダーだ！覚えておけ！」

ディレンド「舐めやがって！まだダークライダーは居る！」

ディケイド「何！」

そこに巨大な影が現れた

ディレンド「最後のダークライダー、アークだ！！」

アークはアークトライデントをディケイド達めがけて投げつけた

ディケイド「うおっ！」

ディエンド「ZO！」

ZOは巻き添えになりかけたディエンドをかばい消えた

ディケイド「お前、毎回ライダーの扱い雑だな！」

ディエンド「それより、あいつよりでかいの持ってるよ！」

『アタックライドウ、ジェイパワー！』

Jはアタックライドで大きくなった

ディレンド「何！しかしこっちにもあるぞ、そのカード」

『アタックライドウ、ジェイパワー！』

アークはJと同じ大きさになった

ディエンド「そんなことが！まあいい、行くよ士！」

『ファイナルフォームライドウ、ディ・ディ・ディ・ディケイド！』

ディエンド「痛みは一瞬だ！」

ディケイド「ぐはっ」

ディケイドはディケイドジャンボフォーメーションとなった

ディレンド「おのれ、だったら俺もだ！」

『ファイナルフォームライドウ、ディ・ディ・ディ・ディレンド！』

ディレンドもディレンドジャンボフォーメーションとなった

『『ファイナルカメンアタックフォームライドウ』』

「「はあっ」」

ディケイドとディレンドはファイナルディメンションキックを放った

最後に倒れたのは、ディレンドだった

ディレンドとディケイドは元のサイズに戻った

しかしディレンドは生きていた

ディレンド「おのれ、許さんぞ・・・許さんぞおおお！」

ディレンドと倒れていた赤ドラスは合体してアルティメットDとなった・・・

6話 本当の最終決戦へ（後書き）

最近編集ばっかでしたね
たぶん次で最終回！

7話 最終決戦！鳴滝の変身・剣崎との死闘

アルティメットD「ドラス、ダークライダー、ディレンドの魂が合体しアルティメットDとなるのだ」

ディケイド「お前、生きていたのか！」

電王「おい、どうすんだよ！」

他のライダーは全員基本フォームに戻っていた

ディケイド「お前ら全員、ちょっとくすぐったいぞ！」

『ファイナルフォームライドウ、オ・オ・オ・オールライダーズ！』

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

ディケイドはファイズブラスターとブレイドブレードを持ちクウガゴウラムに乗る、デンオウモモタロスにはキバアローを持ちアギトトルネイダーに乗る、ディエンドはヒビキアカネタカにぶら下がってリュウキドラグレッダー、ゼクターカブトもそれぞれ攻撃を仕掛けた

『ファイナルアタックライドウ、オ・オ・オ・オールライダーズ！』

デンオウモモタロス「行くぜ！俺たちの必殺技・・・・・・・・・・」
オールライダーバージョン！！！！」

オールFFRライダーは必殺技を決めた

アルティメットDは爆死した

デンオウモモタロス「はぁ、いっちょあがりと！」

ディケイドはオールライダーのFFRを解いた

そこに紅と剣崎が現れた

紅「やはり他のライダーを仲間にしたのは間違いでしたか……」

剣崎「紅……行くぞ！」

鳴滝「待ってくれ！」

ディケイド「鳴滝！」

鳴滝が止めに入った

剣崎「鳴滝！お前！」

紅「裏切りましたか……」

鳴滝「もう少し待ってくれ！」

剣崎「どうしても動かないというのなら力ずくだ！」

「「変身！」」

『ターンアップ！』

『ガブッ！』

鳴滝「こうなったら！」

鳴滝は腰にある音叉を取り出し、鳴らし額に当て、体中から青い炎が出てきた

鳴滝「おおおお！・・・はあぁっ！」

鳴滝は仮面ライダー鳴滝鬼なるたきとなった

ディケイド「鳴滝！お前！」

鳴滝鬼「これが私の本当の姿だ！」

そのときライドブッカーから一枚のカードが飛び出た

そのカードをディケイドライダーに差し込んだ

『ファイナルフォームライドウ、ナ・ナ・ナ・ナルタキ！』

鳴滝鬼はナルタキアサギワシとなりブレイドKキングフォームに攻撃をした

ブレイドK「ディケイド！貴様ああ！」

『ファイナルアタックライドウ、ディ・ディ・ディ・ディケイド！』

ディケイド「ハアッ！」

ディケイドはディメンションスラッシュを放ちブレイドKに攻撃し、ブレイドKの変身が解けた

剣崎「我が魂が滅ぶ時14が復活する！」
フォーティーン

剣崎は倒れ、体から飛び出した魂はオーロラの中に消えた

キバット『どうする渡?』

キバ「キャッスルドランとシュードランで行く!」

キバット「了解・・・キャッスルドラン!」

オーロラの中からキャッスルドランと共に14が現れた

電「なんなんだあのデカブツは!」

デイケイド「鳴滝!」

鳴滝鬼「おう!」

『ファイナルアタックライドウ、ナ・ナ・ナ・ナルタキ!』

鳴滝鬼はナルタキアサギワシからナルタキオンゲキコへと変わり14に装着された

デイケイド「行くぜ!鳴滝!海東!」

デイエンド「どうせだったらオールスターズだ!」

『カメンライドウ、イブキ!トドロキ!ザンキ!サバキ!ダンキ!
エイキ!シュキ!バンキ!ショウキ!トウキ!ゴウキ!カブキ!キ

ラメキ！トウキ！ニシキ！ハバタキ！』

響「僕も戦います！」

全響鬼ライダーが14目掛けて必殺技を繰り出す

ディケイドも負けじと＜ディケイドアナザーウェイブ＞を繰り出した

響鬼以外の平成歴代ライダーはキャッスルドランと戦う

『ファイナルベント！』

『エクシードチャージ！』

『キック、サンダー、ライトニングスマッシュ！』

『1、2、3、ライダーキック！』

『フルチャージ！』

『ウェイクアップ！』

クウガアギト「はあっ」

平成ライダーはキャッスルドランに必殺キックを叩き込む

ディケイド達も14に清めの音を叩き込む

14、キャッスルドランは絶命し爆発した

紅はキャッスルドランから逃げ変身を解き、オーロラの中に消えて
った

デイケイド「これで終わったのか？全部」

夏「それじゃ写真館にでも行きますか」

～～写真館～～

栄「はいチーズ！」

『パシャッ』

そこには夏海、ユウスケ、ショウイチ、シンジ、タクミ、カズマ、
アスム、ソウジ、M良太郎、ワタル、海東、キバール、士、鳴滝の
姿もあり、後ろにそれぞれが変身するライダーの姿が映っていた・
・

7話 最終決戦！鳴滝の変身・剣崎との死闘（後書き）

後書きは活動報告に書きますんで登録を4649)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5335j/>

仮面ライダーディケイドEX～VS凶悪軍団～

2010年10月14日15時41分発行